

九州産業大学

九州産業大学人間科学部スポーツ健康科学科 奥村浩正

1. 学部について

本学は平成24年度から、既存の学部学科を学生や地域社会のニーズに即した魅力あるものへと再構築するために、全学を挙げて教育改革に取り組んできた。この教育改革の大きな目玉の一つが、平成30年4月から新設された人間科学部の設置である。本学部はスポーツ健康科学科・臨床心理学科・子ども教育学科の3学科で構成しており、「からだ」、「こころ」、「こども」に関する分野において、「人を支える人」を育てる」ことを目的としている。

また、この3学科の関連性は、「ゴールデン・トライアングル」と称され、「人間性の尊重」を基本理念に、乳幼児期（こども）から人間の成長及び発達過程を「こころ」と「からだ」の両面から多角的かつ科学的に探求することで、前述のとおり、「人を支える人」を育てる」という点においても共通性を持つものである。

更に、研究分野においても、各学科特有のスキルを相互に組み合わせることで「乳幼児の健康支援・教育プログラム」（スポーツ健康科学科と子ども教育学科）、「心身両面の健康づくり支援」（スポーツ健康科学科と臨床心理学科）などの学科横断型プロジェクト及び教員の共同研究等の様々な試みが可能となる。

このように、本学部は、本学の将来はもちろん、地域社会の人材育成のニーズ等に応えるべく実践的教育、地域に根ざした研究・社会貢献を通じて、九州を基盤とした「地域密着型大学」を実現するために誕生した。

2. 学科について

本学に対するスポーツ系学部や学科の設置に関する要望は、昭和の頃から学内外を問わず多数あったと聞いている。今までに幾度となく話しが沸いては消えを繰り返し、ようやく実現に至った。

スポーツ健康科学科は、平成30年4月から教員16名、第1期生83名（定員80名）にて第一歩を踏み出した。

本学科のコンセプトは次の4つである。

1. トップアスリート養成

アスリートとして競技力向上に努めるだけでなく、自らの能力を高める方法を学び実践できる人材を養成する。

2. 教員養成

生徒の心身の健康のみならず、教職員の健康維持・向上にも貢献できる教員養成を目指す。中学校、高等学校教諭一種免許状（保健体育）取得可能。

3. 健康

健康経営の知識を有した人材育成。健康運動指導士・JATI等、資格取得を目指す。

医療法人相生会）福岡みらい病院と包括連携協定を締結（平成29年6月）。

4. スポーツビジネス

ビジネスの仕組みを通じてスポーツの価値を高められる人材を育成。プロスポーツチームを題材に実践的な学びの場を提供する。

この中でも、本学科のイチオシ！は、「スポーツビジネス」である。

本学は、「産学一如」を建学の理想としている。産学一如とは、「産業と大学は車の車輪のように一体となって時々の社会のニーズを満たすべきである」との意味である。この産学一如に照らし、スポーツビジネス分野にて「産業とスポーツ」の関わりを深く学ぶことで、広く産業界の期待に応えられる人材の輩出を目指している。

カリキュラムには、「スポーツマーケティング論」「スポーツファイナンス論」「地域プロスポーツマネジメント論」などの科目を配置した。

また、それとは別に、福岡ソフトバンクホークス株式会社との連携講座や日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）からの業務委託として、アビスパ福岡チームの観戦者調査などを実施している。

今後も、九州・福岡という地の利を生かし、野球、

サッカー、バスケットボールのプロチームや地域社会との連携講座、調査研究等を実施・計画中である。

3. 施設について

平成30年4月の本学科のスタートと同時に、新棟3号館（地上8階）が完成した。主に本学科の講義は、2～4階の教室で行っている。5,6階は教員研究室、7階にはバイオメカニクス実験実習室、運動生理学実験実習室、スポーツ医学演習室、運動心理学実験実習室、社会学演習室を設置し、各実験室には最新の実験・測定機器を設置した。

また、新体育館として「大楠アリーナ2020」（2020年3月完成予定）を建設中である。このアリーナは3階建てで、1階は卓球場をはじめ多目的フロアと現在3号館7階にある全ての実験実習室が入る。2階はバスケットボールコート4面が入る広さを確保した。同一時間内にバスケットボール、バレーボール、バドミントン、フットサルなど4種目の授業が実施可能である。3階にはトレーニング室、ランニングコース（1周約300m）、1,000人収容可能な観客席を設置した。収容人数は2,3階フロアで総勢5,000人を収容可能となる。

本学科の専門科目や全学的な基礎教育科目の「スポーツ科学演習」はもちろん、入学式、学位授与式などの学内行事をはじめ、各種スポーツ大会、イベント誘致にも対応できる規模である。

更に、新プール（25m、6コース）を建設予定（平成2020年4月完成）。学科基幹科目の水泳はもちろん、クラブ活動などにも使用されることを期待している。

本学は2020年に開学60周年を迎える。新学部設置に伴い、新棟、新体育館、新プールの新設により教育研究に対する環境面は九州随一と言っても過言ではない。真新しいものに目を引かれがちになるが、開学から長きにわたって本学の基礎教育科目（スポーツ科学演習、心の健康、健康学）は全て健康・スポーツ科学センター教員が担ってきた。当センターの業務は、全学的な健康科学およびスポーツ科学に関する教育研究、学生および教職員のスポーツ活動に関する専門的な業務、生涯スポーツの振興等、広きにわたる。本学の歴史を顧みても、健康・スポーツ科学センターの業績は計り知れないものがある。新学部設置の礎を作ったのは、言うまでもなく健康・スポーツ科学センター教員の先輩諸氏である。本学の歴史と伝統を顧みるたびに先輩諸氏には感謝の念に堪えない。

今後も本学1万人超の学生に対して、本学科と健

康・スポーツ科学センターとが一体となり、本学の教育研究の一翼を担って行く所存である。

